

## 愛宕神社境内採集の「桃山茶陶」について

西森 正晃

### 1. はじめに

京都市内最高峰である愛宕山（標高924 m）の頂上に鎮座する愛宕神社は、古来より火伏せの神として知られ、現在も「火廻要慎（火の用心）」の御札を求める多くの参拝者で賑う。本稿は、愛宕神社の境内地で採集され、京都市考古資料館に寄託された「桃山茶陶」をはじめとする「江戸時代前半」の陶磁器類の資料紹介を行うものである。

### 2. 経緯と聞き取り調査

平成29年11月24日、京都市考古資料館に愛宕神社元権禰宜である岡本周次郎氏

によって、参拝者（以下、発見者という）が境内で採集され、神社側に預けられた陶磁器類を持参された。採集品はダンボール1箱分で、「安土桃山時代から江戸時代前半」にかけての美濃や唐津産等の施釉陶器をはじめ、丹波産の焼締陶器、肥前産の磁器や輸入陶磁器、土師器、石製品、鉄製品を含む合計156点である<sup>1)</sup>。中でも、茶の湯の席で用いられる美濃産の織部向付、いわゆる「桃山茶陶」が複数認められたことは、採集場所が標高の高い山頂付近という特殊性と相まって、注目に値するものであった（写真1）。採集品は、所有者である宗教法人愛宕神社より、京都市考古資料館へ寄託の申出を受けたため、本市にて保管し、活用することとなった。合わせて、発



図1 採集地点位置図 (S=1:5,000)



写真1 寄託資料



写真2 岡本周次郎氏寄託資料

見者が境内同地点で採集され、岡本氏が購入された陶器類計6点も同館に寄託された(写真2)。

平成30年1月12日には、発見者から採集時の聞き取り調査を実施することができた。発見者によると、20年以上前、愛宕神社参拝の折、頂上付近の参拝路に沿った斜

面地にて落葉の隙間に陶磁器類が散布していることに気が付いた。すぐに神社側に報告を行ったものの特段の注意は払われず、大雨の度に流出することから、参拝の度に目に付くものを自宅に持ち帰り保管されていた。近年、足腰が弱くなったため、境内で採集した大半を神社に持参したとのこと



写真3 採集地点

であった。

採集地点付近の状況については、岡本氏もかねてより境内清掃の際に陶磁器の散布に留意されており、その散逸を防ぐため参拝路上に散布するものは斜面に集めていたとのことである。

### 3. 採集地点

平成29年12月11日に、岡本氏の案内の元、採集地点の現地確認を実施した。

採集地点は、愛宕神社社務所が所在する平場から本殿へと向かう石段の東側で、標高850m前後にあたり、周知の埋蔵文化財包蔵地である愛宕山遺跡に含まれている(図1)。枯れ枝や落葉に覆われる急斜面地で(写真3)、遺物は幅30m、標高差50mにわたって散布している。急峻な地形のため、当地に建物群が立地したとは考えにくい。上方約50mには人工的な平場が存在し、後述するように宿坊跡の一つと想定されることから、平場から投棄又は廃棄されたものと捉えられる。ここでは、遺跡保護の観点から詳細な出土場所を示すことは差し控えたい。

### 4. 愛宕山の沿革

愛宕山に鎮座する愛宕神社は、全国におよそ900社ある愛宕神社の総本宮である。祭神は伊弉冉命イザナミノミコトと迦俱槌命カグツチノミコトに代表される計十七柱を祀るが、明治時代初頭の廃仏毀釈までは、愛宕大権現を祀る神仏習合の霊山であった。

その歴史は古く、江戸時代の地誌類から、開山については二つの由緒があったことがわかる。

『山城南勝志』に引く「縁起」によると、大宝年間(701～704)、役小角と雲遍上人(泰澄)が大勢の天狗に導かれ、朝日峯、大鷲峰、高雄山、龍上山、賀魔蔵山の五岳を開き、勅命により朝日峯(現在の愛宕神社所在地)に神廟を置いたのが、愛宕権現の始まりとされる。その後、天応元年(781)、大安寺の僧慶峻が中興し、和氣清麻呂が朝日峯に白雲寺を置いたほか、それぞれ月輪寺、神願寺(現在の神護寺)、日輪寺、伝法寺を建立し、山中に五千坊を営んだとされる。桓武天皇の代には「愛宕護大権現」と名を改め、この山を鎮護国家の道場と定めたとある<sup>2)</sup>。

もう一説は、『雍州府志』等にあるもので、当初、神社は愛宕郡に属する洛北鷹峯の北にあり、慶峻が天応元年に愛宕山へ移したとするものである。元は手白山との呼称を旧社地由来の地名として用い、後に名を改めたとしている<sup>3)</sup>。

移転説では現在の亀岡市に「元愛宕」と称される愛宕神社があり、社伝によると鷹峯にあった愛宕社は、当社から分祀したとされる。

次に歴史資料からみると、貞観6年(864)愛宕社に従五位下の神階が授けられた記事が初見となる<sup>4)</sup>。神階はその後も上昇を続け、元慶3年(879)には従四位下を授与されており<sup>5)</sup>、平安京遷都以降、都の乾(=天門)に鎮座する愛宕山は、鬼門である比叡山とともに王城鎮護の靈山として朝廷から重要視されている。

神仏習合も進み、天元5年(982)源惟章・遠理兄弟の出家<sup>6)</sup>、永延2年(988)の戒壇建立計画<sup>7)</sup>、万寿4年(1027)の藤原頼通の白雲寺参詣<sup>8)</sup>等の記録が残る。鎌倉時代までに成立したとされる『拾芥抄』には、愛宕山が修験道の盛んな「七高山」の一つに挙げられており<sup>9)</sup>、山岳信仰の靈山としても捉えられていたことがわかる。

そのため、愛宕山への信仰は様々な要素が加わり、白雲寺の本尊には伊弉冉命イザナミノミコトの本地仏として勝軍地藏を、奥之院には愛宕山に住むとされた天狗<sup>10)</sup>=太郎坊が祀られ、

火神とされた。この愛宕信仰は、「愛宕聖」(『源氏物語』)や「清滝川聖」(『宇治拾遺物語』)によって全国に広がりを見せる。特に、中世後半以降、祭神の勝軍地藏は甲冑を纏い、剣を持つ像容、何よりも軍に勝つという名称から、軍神としての尊崇を集めたほか、太郎坊は火伏の神として朝野からも多くの信仰を集めた<sup>11)</sup>。

室町時代に入ると、応仁の乱で愛宕山も焼失するが<sup>12)</sup>、乱後は細川政元が梵鐘を寄進したように<sup>13)</sup>復興が進んだようで、『寺院記』によると、愛宕五坊と称される白雲寺宿坊の長床坊・教学院・大善院・威徳院・福寿院は応仁の乱以降の中興と伝わっている<sup>14)</sup>。幕府からも神馬の寄進が相次いでおり<sup>15)</sup>、戦国時代に至って各方面からの信仰の高まりによって、山上の伽藍が大規模に整えられたと考えられる。各坊院名が史料に具体的に登場するのが応仁の乱以降であることからそれを裏付けられよう。

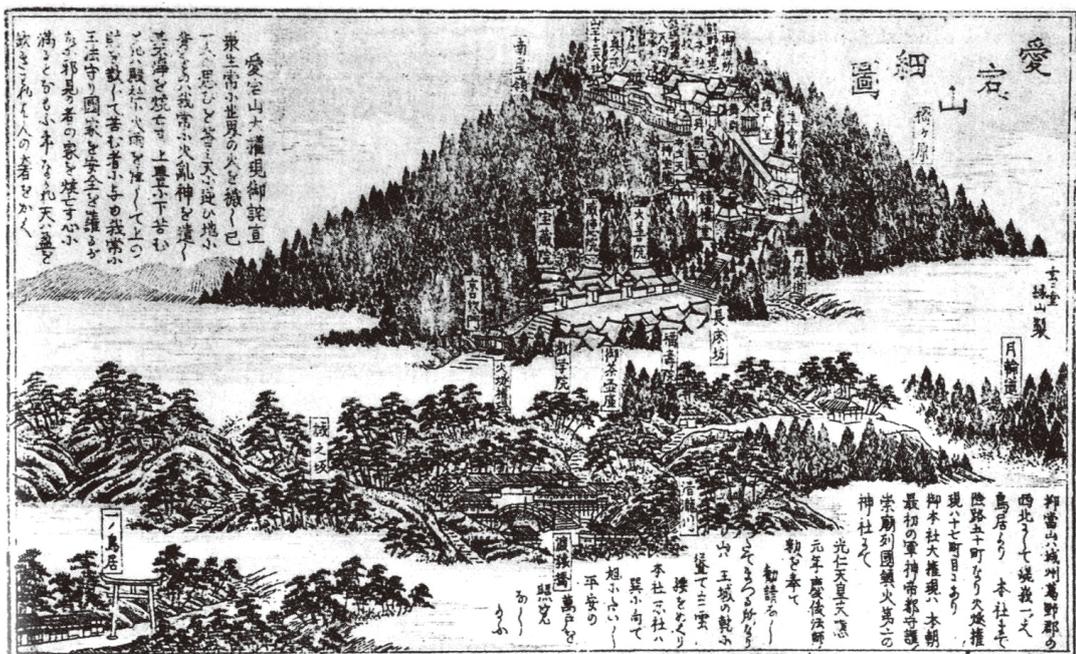


図2 「愛宕山細図」『京都社寺境内版画集』国立国会図書館ウェブサイトから転載

近世に入ると、貴族や大名の参詣記事が増えるが、慶長元年（1596）の慶長大地震によって各坊院は倒壊したようである<sup>16)</sup>。地震後の慶長年間の愛宕山の動向は詳らかではないが、元和6年（1620）に徳川秀忠の援助に依って、造営及び遷宮が行われている<sup>17)</sup>。その後、寛永17～19年（1640～1642）にかけても愛宕社の造営が行われたが<sup>18)</sup>、正保2年（1645）、福寿院酒蔵からの出火によって全山が焼亡している<sup>19)</sup>。再建は、慶安2年（1649）から開始され、承応元年（1652）に遷宮されている<sup>20)</sup>。なお、この焼亡まで五坊は「鉄鳥居之内、廊下左右二有」とあり、「正保炎上以後今之処移」<sup>21)</sup>とされ、炎上後は場所を違えて造営されたことがわかる。したがって、近世地誌類等に多数描かれている愛宕山の風景は（図2）、焼亡後に再建された姿を示している。つまり、炎上前の五坊は、現在社務所が建つ平場から本殿へと登る石段途中にある鉄鳥居よりも上部にあったことになり、遺物が採集された地点の上部にある平場には、正保炎上前まで五坊のいずれかの宿坊が所在したと想定できる。

その後も地震や火災、台風、落雷によって被害を受けるものの、その都度再建、修復がなされ維持されたが、明治初頭の廃仏毀釈によって白雲寺及び五坊は全て破却、祭神を愛宕大権現から愛宕大神に改め、現在に至っている。

## 5. 採集遺物

今回、愛宕神社境内で採集され、考古資料館へ寄託された資料は、安土桃山時代から江戸時代前半にかけての陶磁器類等で、内訳は陶器135点、磁器13点、土師器3点、鉄製品1点、石製品3点の計156点と岡本氏寄託分の陶器6点の合計162点である。ただし、神社寄託資料の青織部向付（図3-3・写真5-3）に接合する破片があったため、実際は1点減った合計161点である。

採集品は、施釉陶器が全体の8割近くを占め、焼締陶器、磁器と続き、土師器、鉄製品、石製品は少量である。施釉陶器では美濃108点、九州14点、京都1点で美濃産が9割近くを占める。焼締陶器では、備前3点、丹波8点、信楽3点、不明4点で丹波産が主体を占める。磁器では、輸入品の染付11点のほか、肥前産も2点含んでいる。他に京都産の土師器皿が3点ある（表1）。器形別では、施釉陶器の皿の出土が最も多く、向付・鉢などの食器類の割合が高い。

陶磁器の年代は、大半が17世紀初頭から17世紀中頃に収まるものであり、正保2年（1645）の焼亡が下限の資料と判断できる。

以下、図化した遺物を中心に概要を述べる。図面の縮尺は全て1/4である。なお、図化した遺物の詳細は観察表（表2）を作成している。

### 施釉陶器

施釉陶器では、美濃産の織部（青織部・

表1 寄託資料組成表

| 種別     | 産地     | 種類     | 器形     | 点数   | 比率     |   |
|--------|--------|--------|--------|------|--------|---|
| 土師器    | 京都     | 土師器    | 皿      | 3    | 1.9%   |   |
| 施釉陶器   | 美濃     | 織部     | 向付・鉢   | 19   | 87.8%  |   |
|        |        |        | 皿      | 1    |        |   |
|        |        |        | 水注     | 1    |        |   |
|        |        |        | 花入     | 1    |        |   |
|        |        | 志野     | 向付・鉢   | 8    |        |   |
|        |        |        | 皿      | 6    |        |   |
|        |        |        | 不明     | 1    |        |   |
|        |        | 長石釉    | 皿      | 50   |        |   |
|        |        |        | 鉢      | 1    |        |   |
|        |        |        | 碗      | 1    |        |   |
|        |        |        | その他・不明 | 3    |        |   |
|        |        |        | 灰釉     | 皿    |        | 4 |
|        |        |        |        | 碗    |        | 1 |
|        | 鉄釉     |        | 蓋      | 1    |        |   |
|        |        | 壺      | 1      |      |        |   |
|        | 白釉     | 皿      | 2      |      |        |   |
|        | 御深井釉   | 向付     | 5      |      |        |   |
|        |        | その他・不明 | 1      |      |        |   |
|        | 不明     | 皿      | 1      |      |        |   |
|        | 唐津・高取  | 絵唐津    | 皿・鉢    | 2    | 11.4%  |   |
| 灰釉     |        | 皿      | 12     |      |        |   |
| 京都     | 軟質施釉陶器 | 向付     | 1      | 0.8% |        |   |
| 施釉陶器 計 |        |        |        | 123  | 100.0% |   |
| 焼締陶器   | 備前     |        | 甕      | 3    | 11.2%  |   |
|        | 丹波     |        | 播鉢     | 8    |        |   |
|        | 信楽     |        | 壺・鉢    | 3    |        |   |
|        | 不明     |        | 甕・壺・鉢  | 4    |        |   |
| 焼締陶器 計 |        |        |        | 18   |        |   |
| 磁器     | 中国     | 染付     | 皿      | 6    | 8.1%   |   |
|        |        |        | 碗・鉢    | 2    |        |   |
|        |        |        | 小杯     | 1    |        |   |
|        |        |        | 不明     | 2    |        |   |
|        | 肥前     |        | 碗      | 2    |        |   |
| 磁器 計   |        |        |        | 13   |        |   |
| 鉄製品    |        |        |        | 1    | 0.6%   |   |
| 石製品    |        |        |        | 3    | 1.9%   |   |
| 合計     |        |        |        | 161  | 100.0% |   |



写真4 青織部向付風の軟質施釉陶器

鳴海織部・志野織部), 志野, 鼠志野, 長石釉, 白釉, 灰釉, 鉄釉, 御深井釉の製品があり, 九州産では絵唐津や灰釉製品の他, 高取産も認められる。京都産では青織部平向付風の軟質施釉陶器(写真4)がある。

青織部・鳴海織部(図3・写真5)

1～4は青織部である。

1は, ロクロ成形後に口縁部を押さえ,

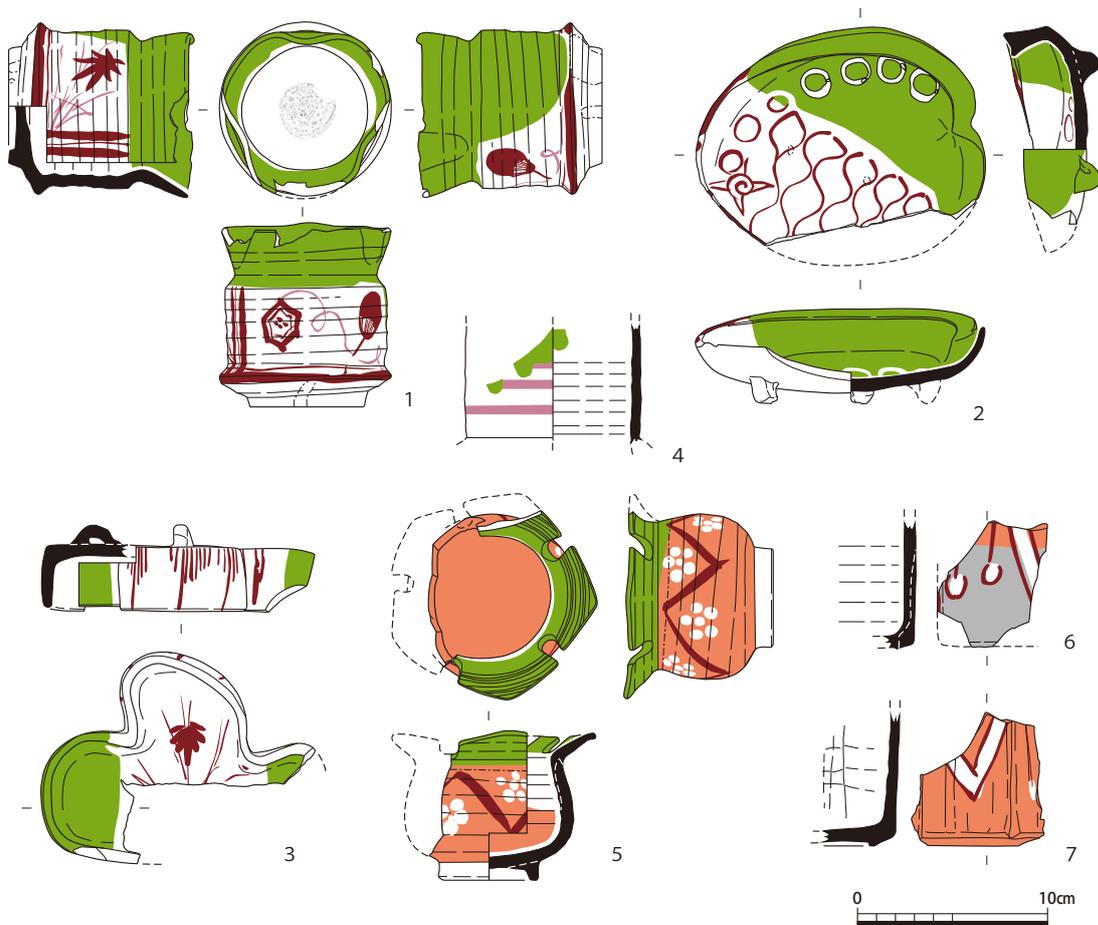


図3 青織部・鳴海織部

変形させた筒向付である。口縁部の内外面と体部の一部に胴緑釉を施し、体部に鉄絵で紅葉、団扇、扇等を描き、長石釉を施す。2はロクロ成形後、型打ちした平向付である。鮑貝の平面形を呈す。胴緑釉と長石釉を掛け分け、貝殻の穴を鉄絵と胴緑釉の掻き落としとして表現している。底部には3カ所に紐環足を貼り付ける。3はタタラ型打ちした平向付で、州浜形を呈す。体部左右に胴緑釉を掛け分け、見込みには草花文が描かれる。底部には2カ所に紐環足が残る。4はロクロ成形で、筒型の花入か。胴緑釉を垂らし、鉄絵で横線を描く。文様が簡素化されており、織部製品の中でも新しい様相を示している。

5～7は鳴海織部である。5はロクロ成形後口縁部に切り込みを入れ、輪花風とした筒向付である。体部は内外面ともに赤色土を塗り、白泥で梅花を描く。口縁部は内外面ともに胴緑釉を施す。6はロクロ成形後型打ちした筒向付である。白土と赤土を繋ぎ合わせ、白土部分には鬼板を塗り鼠志野風とし、赤土部分に長石釉を掛ける。文様は白泥で吊るし柿と鋸歯を描き、鉄絵で輪郭をなぞる。7は型打ちの筒向付である。白土に鬼板を掛け、長石釉を施す。6と同様に白泥で吊るし柿と鋸歯を描き、鋸歯のみ輪郭を鉄絵でなぞる。底部は碁笥底である。

青織部では他にも向付の破片の他、水

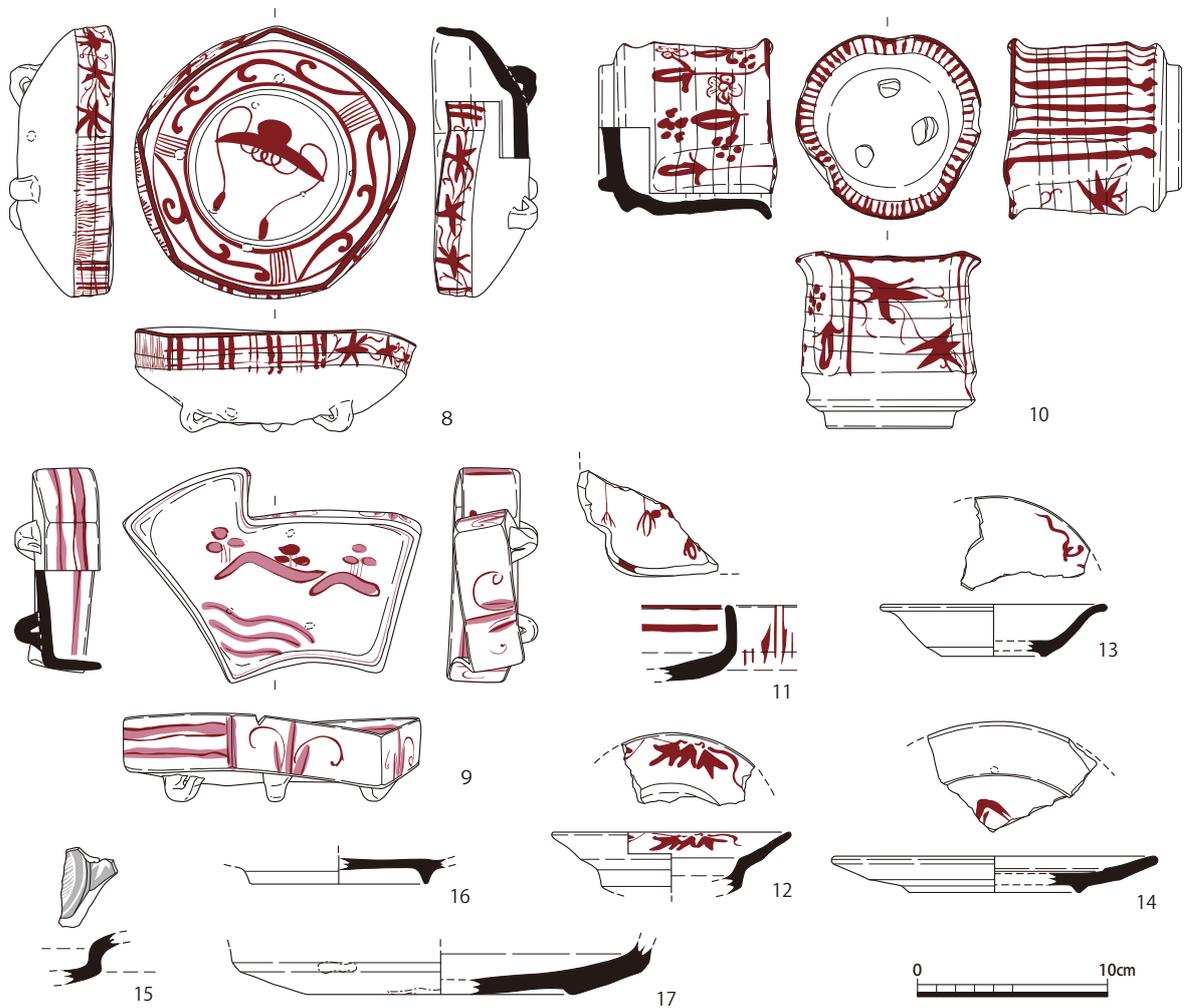


図4 志野織部・志野

注、大皿がある（写真8）。

志野織部・志野（図4・写真6）

8～11は志野織部向付である。

8はロクロ成形後、押圧した平向付で、平面形は五角形を呈す。鉄絵で見込みに笠、体部に草火文、外面口縁部に紅葉唐草、木賊、格子を描き長石釉を施す。底部には3ヶ所に紐環足を貼り付ける。9はタタラ型打ち成形の平向付である。鉄絵で見込みに松林、波を、外面口縁部に蔓草と横縞を描き、長石釉を施す。底部には3ヶ所に紐環足を貼り付ける。10は、ロクロ後押圧し

た筒向付である。鉄絵で口縁部内面に縦縞、外面には縦縞の他、梅花散らし、吊るし柿、紅葉唐草を描き、長石釉を施す。見込みには3ヶ所のトチン跡が残る。11はロクロ成形後型打ちした平向付である。鉄絵で見込みに吊るし柿、梅花を、口縁部外面には縦縞を描き、長石釉を施す。

12～14、16・17は志野、15が鼠志野である。

12はロクロ成形した皿又は小鉢である。鉄絵で口縁部内面に蔓草を描き、長石釉を施す。13はロクロ成形した端反皿である。鉄絵で口縁部内面に唐草を描き、長石釉を

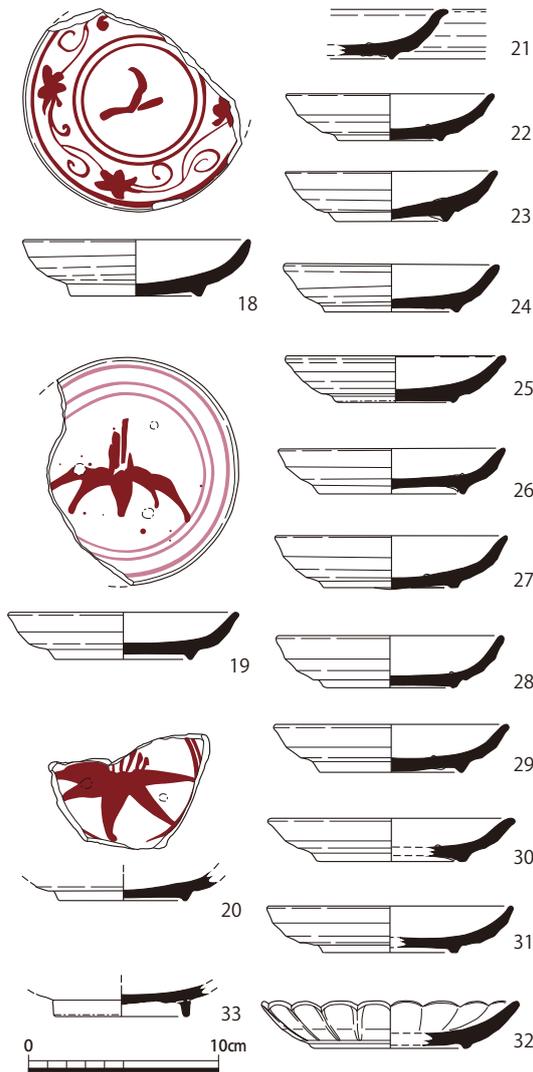


図5 長石釉・白釉

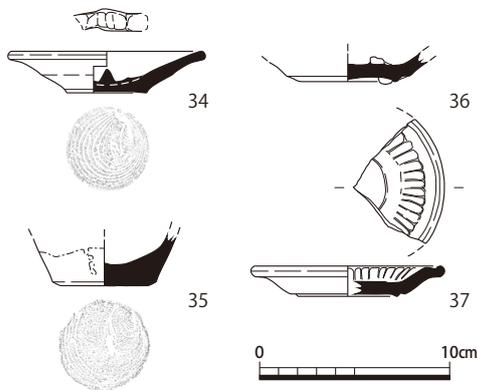


図6 鉄釉・灰釉

施す。14はロクロ成形した段皿である。見込みに鉄絵で文様を描き、長石釉を施す。15はロクロ成形した鼠志野鉢である。白土に鬼板を施し、文様を掻き落とし、長石釉を施す。16はロクロ成形した志野皿である。高台畳付きを除き、長石釉を厚く施す。全体に貫入が認められる。17はロクロ成形した大鉢である。底部は碁笥底である。

志野では他に角鉢、角向付、皿等がある(写真9)。

#### 長石釉・白釉(図5・写真6)

長石釉の皿類は50点を数え、採集品の中で最も多くを占める。

18～32は長石釉、33は白釉である。いずれもロクロ成形である。

18は鉄絵丸皿で、見込みに鉄絵で飛鳥、口縁部内面に紅葉唐草を描く。19は鉄絵丸皿で、見込みに鉄絵で笹を描く。口縁端部はやや外反する。20は鉄絵丸皿で、見込みに鉄絵で笹文を描く。21は口縁端部が外反する端反皿である。22～31は丸皿で、口径10.8～12.8cmに属するものである。32は菊皿で口縁部を切り取り、内外面側面を菊花状に削る。外面は浅く花卉を削り込んでいる。33は薄手で長石釉を施した白釉の皿で、高台は貼り付けている。

長石釉では、他に鉢、碗等が出土している(写真10・11)。

#### 鉄釉・灰釉(図6・写真6)

34・35は鉄釉、36・37は灰釉である。

34はロクロ成形の蓋である。蓋表につまみを貼り付ける。蓋裏は扁平である。35

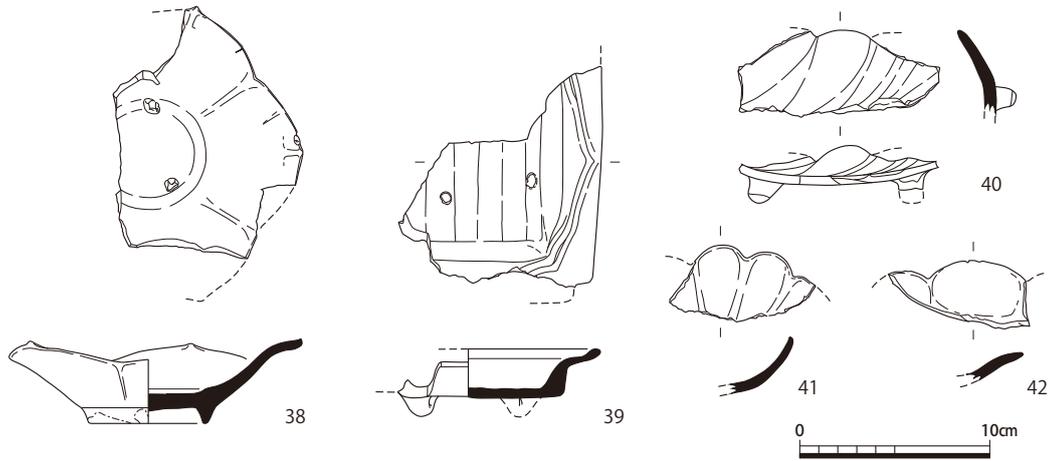


図7 御深井釉

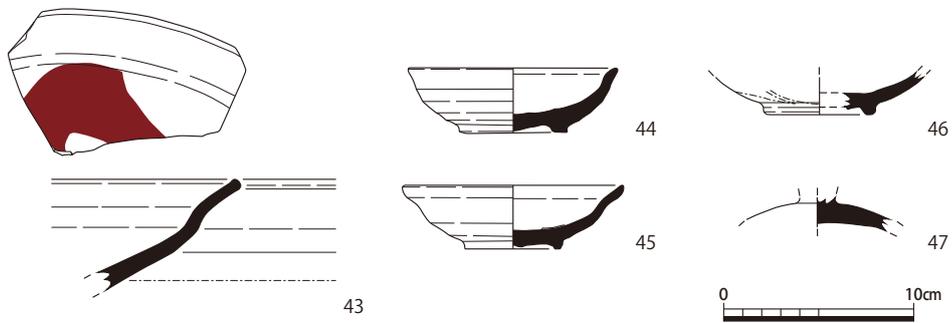


図8 唐津

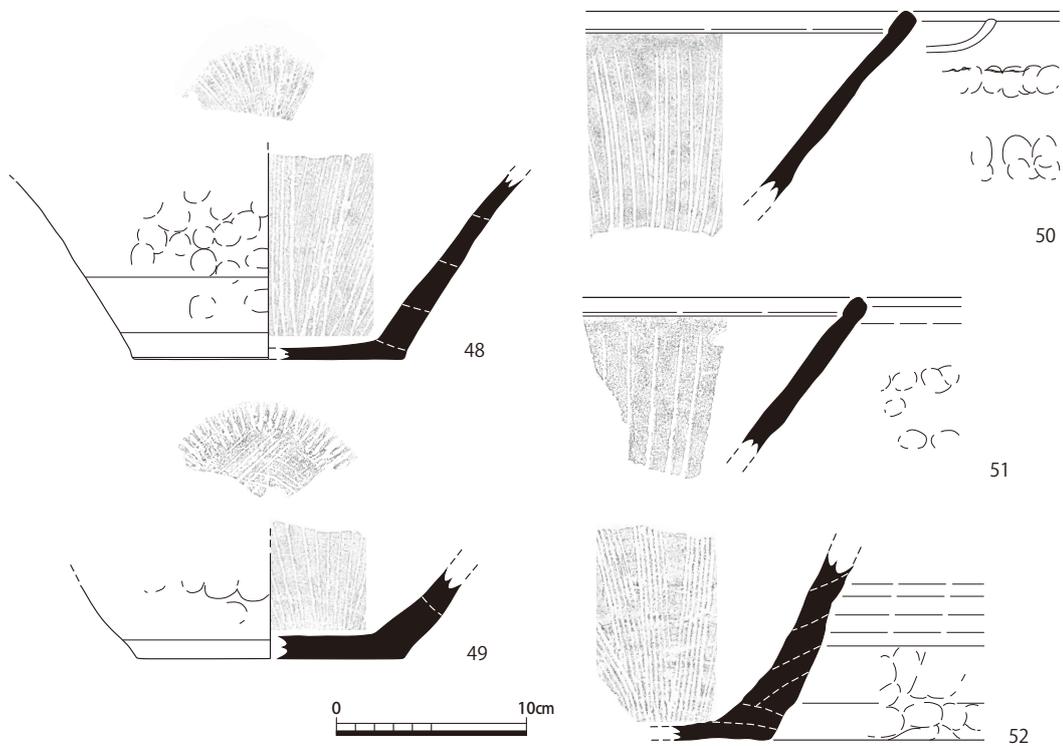


図9 焼締陶器

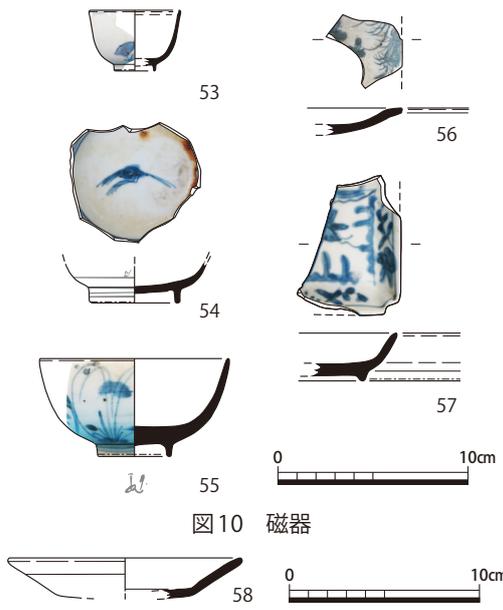


図10 磁器

図11 土師器皿

はロクロ成形の壺底部である。

36はロクロ成形の皿である。見込み及び高台内側に鉄分を多く含む輪トチンが附着している。37はロクロ成形の折縁ソギ皿である。内面底部に段を設け、釉を拭っている。口縁端部は内に折り返し、丸く収めている。

#### 御深井釉 (図7・写真6)

38～42は御深井釉平向付である。御深井釉は、織部製品の盛行後に造られた製品で、灰釉に長石を配合した透明度の高い釉薬を用いている。

38はロクロ成形後、型打ちしたものと考えられ、平面形は輪花形を呈する。高台は貼り付けている。39～42はタタラを型打ちしたものと考えられる。39は底部に2ヶ所の紐環足が残る。40は木の葉形又は輪花形を呈するもので、底部には2ヶ所の円錐状の足が残る。41・42は口縁端部の形状から輪花形と想定されるものであ

る。

#### 唐津 (図8・写真7)

43は絵唐津大皿である。見込みに鉄絵で文様を描く。44～46は灰釉皿で、44は見込みに胎土目、45は砂目、46は胎土目が残る。47は蓋である。胎土は固く焼き締まり、蓋表には緑釉が施される。産地は不明ながら、九州産と考えられる。

唐津産では他に絵唐津鉢や高取産の皿蕩も出土している (写真12)。

#### 焼締陶器 (図9・写真7)

48～52は丹波産播鉢である。いずれも播目に使用痕が認められる。播目の条数は、48が6条、49が1条、50が4条、51が1条、52が6条である。なお、50には口縁部外面に溶着痕が残る。

焼締陶器では、他に備前産の甕や信楽産の壺、鉢、産地不明の壺等がある。

#### 磁器 (図10・写真7)

53・55は肥前産の染付で、54・56・57は輸入品の染付である。

53は小杯、54は見込みに海老を描いた碗である。55は外面に草花文を描き、高台内側に銘を記す。56は草花文を描いた小皿であろう。57は草花文角皿である。いずれも高台は釉ハギされている。55のみ18世紀代に属するものである。

磁器では他に明染付の大皿等が出土している (写真13)。

#### 土師器 (図11・写真7)

58は京都産の土師器皿である。口径は12.2cmに復元できる。京都XI期中段階<sup>22)</sup>

に属するもので、17世紀第2四半期に比定できる。

## 6. まとめ

本件は採集品であるため、発見者による取捨選択を経たものであるが、当時の愛宕山宿坊での使用状況がある程度反映した可能性が高い。ここでは、採集品の内容から把握できることを示してまとめとしたい。

採集品の年代は、古いもので大窯期の志野製品（図4-17）など、17世紀初頭に属するものから、織部製品が大流行した後に生産される御深井釉製品（図7）など17世紀第2四半期に位置づけられるものが含まれている。一部、18世紀以降の肥前産の染付碗（図11-55）も含まれるが<sup>23)</sup>、ほぼ全てが17世紀前半に収まる内容である。これは、文献資料にある正保2年（1645）の全山炎上の記事を下限としても齟齬は無い遺物群として捉えられよう。

内容の特徴としては、国産施釉陶器が全体の8割近くを占めることである。同時期の市内消費地遺跡では、施釉陶器が出土品の中に占める割合は1～2割程度と少なく、当時、施釉陶器が高級品であったことを示しており、日常に使用するものではなく、供応等の特殊な状況での使用が想定される。愛宕山での施釉陶器の割合の高さは、江戸時代初頭に瀬戸物（やきもの）を扱う商店が集中していたことが明らかとなった三条通のせと物や町界隈出土品に匹敵するものであり、特異な状況を示している。

今回の採集品には、せと物や町界隈から

は出土していない鮑形の青織部向付（図3-2・写真5）もあり、「桃山茶陶」の流通の要であったせと物や町とは異なる入手経路の存在を示唆するものである。また、織部製品が盛行した慶長～元和年間以降に生産された御深井釉製品（図7・写真6）の存在は、その生産が京都への美濃産の施釉陶器の流入が激減する時期に該当しており、せと物や町以降の美濃産施釉陶器の動向を知る上でも重要といえよう。

次に、採集品を器種別に見ると、皿類が圧倒的に多い。愛宕山では、神屋宗湛が福寿院で行われた茶会に招かれ、数寄屋にて茶席が開かれたことが知られているが<sup>24)</sup>、向付の類は一定量存在するものの、天目茶碗も含め、茶碗、水指、建水等はほとんど認められない。皿類が占める割合が高いことは、秀吉に招かれ上洛中の毛利輝元が、福寿院にて家臣とともに能や酒食で供応を受けた記事<sup>25)</sup>でみられるような、宴席が主体であった可能性が高い。やや時代が下るものの、旧暦6月24日の愛宕詣（現在の千日詣）を記した『日次紀事』によると、「数えることができないほどの参拝者は、各々馴染みの坊院に入り、酒食で供応されて休憩し、御札と櫛を購入した」ことが記されている<sup>26)</sup>。福寿院以外にも各坊院には茶所が設けられており<sup>27)</sup>、参拝者をもてなしていたことが分かる。

愛宕山は火伏せとしての信仰だけではなく、軍神としての信仰も厚かったため、近世に入ると、庶民だけではなく、公家や大名、豪商の参詣が急増したことが知られている。今回の遺物群が前代までのものがほとんど認められず、17世紀前半に属する

ものであることも、これを裏付けられよう。

今回の資料は、下限が明らかであり、火災や廃仏毀釈による混乱のため、残された史料の少ない近世の愛宕山の具体的な活動を窺い知ることができる貴重な資料といえる。

最後に、貴重な資料を寄託していただいた宗教法人愛宕神社並びに岡本周次郎氏に対し、記して謝意を表したい。

## 註

- 1) 寄託後の整理作業にて、青織部平向付(図3-3)に接合する破片があったため、現在は155点となっている。
- 2) 『山域名勝志』新修京都叢書第十三巻，臨川書店，1994年
- 3) 『雍州府志』新修京都叢書第十巻，臨川書店，1994年
- 4) 『日本三代実録』貞観六年五月十日条「授丹波國正六位上愛当護神從五位下」
- 5) 貞観14年(872)に從五位上，元慶三年(879)に從四位下が授けられている。『日本三代実録』貞観十四年十一月二十九日条「授丹波國(中略)從五位下愛当護神從五位上」  
『同』元慶三年閏十月二十四日条「授丹波國從五位上愛当護神從四位下」
- 6) 『日本紀略』天元五年六月二日条「左近少将源惟章，右近将監同遠理，於愛宕護山出家」
- 7) 『帝王編年記』永延二年条「愛宕山可立戒壇之由宣下依山門訴詔改定訖」
- 8) 『小右記』万寿四年八月二十九日条「今朝関白閉門戸物忌云々，實者密々隨親昵人等登愛太子白雲，即歸云々」
- 9) 『拾芥抄』下巻 七高山部第六

「比叡・比良・伊吹・愛宕護・神峯・金峯・葛城」

- 10) 平安時代後半には、愛宕山に強力な靈力を持つ天狗が住むと広く信じられていたようで、『太平記』や『源平盛衰記』などの説話集の他、『台記』(久寿二年八月二十七日条)など、貴族の日誌にも度々登場する。
- 11) 『言継卿記』永禄十二年七月十六日条 禁裏に愛宕札15枚を献上したことが記されている。
- 12) 『碧山日録』応仁二年九月十六日条 「是より先，栖霞院の釈迦像愛宕山に移徒す。山堂又化火あり，自ら焼けるなり。」
- 13) 『寺院記』には正保2年の火災で焼失した鐘楼にあった銘が記されており，細川政元が延徳2年(1492)に寄進したことがわかる。
- 14) 『寺院記』には愛宕五坊を中興した僧侶と年紀が記されている。  
威徳院 法印行巖 大永四甲申歳(1524)  
大善院 右同僧 同断  
勝地院 法印裕巖 延徳二庚戌年(1490)  
教学院 権僧正祐仙 永正十七庚辰年(1520)  
福寿院 権僧正幸海 大永元辛巳年(1521)
- 15) 『神馬引付』に，幕府が長享2年(1488)，同3年，延徳2年(1490)，明応六年(1497)に神馬を寄進したことが記されている。
- 16) 『当代記』慶長元年閏七月十二日条 「愛宕山坊中も倒，所々よりあかる真壺過半損」
- 17) 『梵舜記』元和六年七月二十四日条 「今度江戸將軍より愛宕山御造立なり。悉く出来に依り，遷宮の由なり。上房大善院，一老に依りて執行の由なり。」
- 18) 『都之記』(元禄年間)，京都府立歴史彩館蔵
- 19) 『隔其記』正保二年正月二十四日条 「前宵，半鐘の時分より鶏鳴に至りて，愛宕山回録なり。」  
『鹿苑日録』正保二年正月二十四日条 「愛宕山曉天炎上す。悉く焦土となり遺余なし。威徳院酒蔵より火出ると云々。大木皆焼く。杉木迄焼け残らずと云々。本尊の厨子，尾崎坊とやらん取り出す云々。」

- 20) 18) に同じ。
- 21) 『寺院記』による。
- 22) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号, (財)京都市埋蔵文化財研究所, 1996年に準拠する。
- 23) 採集地点上部に所在する平場には, 正保2年の火災以降も, 小さな堂舎が存在したことが, 中井家文書の「愛宕山社堂指図」からわかる。
- 24) 『宗湛日記』天正十五年三月二十八日条  
三月廿八日 愛宕山  
一, 福寿院ニテ, 先広間ニテ御振舞有テ, 数寄屋ニヨヒ被入ル (以下略)
- 25) 『輝元公上洛日記』天正十六年八月九日条  
「寅刻より愛宕山へ御参候黒田官兵衛殿御案内者也。隆景様廣家様福原元俊御供にて候。権現御供御具足一領, 御腰物一, 御太刀一腰, 御馬一疋葦毛, 御寄進。  
御宿坊福寿院へ万疋遣わせ候。若坊主へ貳千疋遣わせ候。福寿院御一献を進ませ候。  
色々御馳走有之。(以下略)」
- 26) 『日次紀事』卷六 六月二四日「愛宕詣」  
新修京都叢書第四卷, 臨川書店, 1968年
- 27) 『愛宕山社地並寺院建物坪数改記』には, 各坊の各建物, 規模等が記されており, 福寿院以外の坊にも茶所の存在が明記されている。

## 参考文献

- 鶴飼均『愛宕山と愛宕詣り』佛教大学アジア宗教文化情報研究所, 2004年
- 屋木英雄・丸川義弘・宮原健吾・高橋潔「京都・愛宕山中の遺跡-雲心寺跡の発見-」『佛教藝術』259号, 2001年
- 『平安時代史事典』(財)古代学協会・古代学研究所, 1994年
- 『京都・山城寺院神社大事典』平凡社, 1997年
- 『史料 京都の歴史』第14巻 右京区, 京都市, 1994年
- 『京都市の地名』日本歴史地名大系第二七巻, 平凡社, 1979年
- 中井家文書「愛宕山社堂指図」(延寶八年), 京都府立歴史館蔵
- 『阿多古』愛宕神社
- 禿氏祐祥「愛宕山細図」『京都社寺境内版画集』便利堂, 1942年
- 『都之記』(元禄年間), 京都府立歴史館蔵

にしもり まさあき  
西森 正晃 (文化財保護課 文化財保護技師 (記念物担当))

表2 遺物観察表

| No | 産地  | 種別    | 器種  | 成形       | 底部      | 口径<br>(cm)    | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 文様                                | 備考                                 |
|----|-----|-------|-----|----------|---------|---------------|------------|------------|------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1  |     | 青織部   | 筒向付 | ロクロ後変形   | 削り出し輪高台 | 9.8           | 6          | 9.8        | 90         | 外面：紅葉、草、縦縞、団扇、風                   | 岡本氏寄託                              |
| 2  |     | 青織部   | 平向付 | ロクロ後型打ち  | 紐環足3    | 15.2          |            | 5.1        | 80         | 内面：よろけ縞、サザエ                       | 平面形は鮑形。目跡：内外面2<br>岡本氏寄託            |
| 3  |     | 青織部   | 平向付 | タタラ型打ち   | 紐環足2    |               |            |            | 70         | 内面：紅葉、外面：縦縞                       | 目跡：外面輪トチン                          |
| 4  |     | 青織部   | 花入? | ロクロ      |         |               |            |            |            | 外面：圏線                             |                                    |
| 5  |     | 鳴海織部  | 筒向付 | ロクロ後変形   | 削り出し輪高台 | (10.9)        | 5          | 8.9        | 60         | 外面：梅花散らし                          | 口縁部切込みあり。岡本氏寄託                     |
| 6  |     | 鳴海織部  | 筒向付 | ロクロ後型打ち  |         |               |            |            |            | 外面：吊るし柿、鋸歯                        |                                    |
| 7  |     | 鳴海織部  | 筒向付 | 型打ち      | 碁笥底     |               |            |            |            | 外面：鋸歯                             |                                    |
| 8  |     | 志野織部  | 平向付 | ロクロ後押圧   | 紐環足3    | 14.5          | —          | 5.6        | 100        | 内面：笠<br>外面：紅葉唐草、木賊、格子             | 平面形は五角形。目跡：内面見込み3<br>+ 4、外面4。岡本氏寄託 |
| 9  |     | 志野織部  | 平向付 | タタラ型打ち   | 紐環足3    | 11.0<br>~15.3 |            | 4.8        | 100        | 内面：松林、波<br>外面：蔓草、横縞               | 目跡：内外面3<br>岡本氏寄託                   |
| 10 |     | 志野織部  | 筒向付 | ロクロ後変形   | 削り出し高台  | 9.8           | 6.4        | 9.4        | 99         | 内面：口縁部縦縞<br>外面：梅花散らし、吊るし柿、紅葉唐草、縦縞 | 目跡：内面3、外面輪トチン<br>岡本氏寄託             |
| 11 |     | 志野織部  | 平向付 | ロクロ型打ち   |         |               |            |            |            | 内面：吊るし柿、梅<br>外面：縦縞                |                                    |
| 12 |     | 志野    | 皿   | ロクロ      |         | 12.4          |            | (3.25)     | 25         |                                   |                                    |
| 13 |     | 志野    | 折縁皿 | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (12.0)        | (5.6)      | 2.8        | 25         | 不明                                |                                    |
| 14 |     | 志野    | 皿   | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (17.2)        | (9.0)      | 1.9        | 25         | 不明                                | 目跡：内面胎土目1                          |
| 15 |     | 鼠志野   | 鉢   | ロクロ      |         |               |            |            |            | 内面：紅葉                             |                                    |
| 16 |     | 志野    | 皿   | ロクロ      |         |               | 9.4        | (1.3)      | 25         |                                   |                                    |
| 17 |     | 志野    | 大鉢  | ロクロ      | 碁笥底     |               | (14.0)     |            |            |                                   | 目跡：外面胎土目1                          |
| 18 |     | 長石釉鉄絵 | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 12            | 6.9        | 3          | 60         | 内面：飛鳥、紅葉唐草                        | 目跡：高台内に胎土目3                        |
| 19 | 美濃  | 長石釉鉄絵 | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 12.2          | 7.2        | 2.5        | 70         | 内面：笹                              | 目跡：内面3、外面胎土目3                      |
| 20 |     | 長石釉鉄絵 | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 |               | 6.7        | 1.45       | 50         | 内面：笹                              | 目跡：内面2                             |
| 21 |     | 長石釉   | 端反皿 | ロクロ      | 削り出し輪高台 |               |            | 2.6        |            |                                   | 硬質                                 |
| 22 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (10.8)        | 5.2        | 2.5        | 50         |                                   | 目跡：内面1。高台内にヘラ記号あり                  |
| 23 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 11.0          | 5.8        | 2.7        | 75         |                                   | 目跡：内面3、外面3                         |
| 24 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 11.2          | 7          | 2.6        | 80         |                                   | 目跡：内面3、外面3                         |
| 25 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 11.4          | 6          | 2.5        | 25         |                                   |                                    |
| 26 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 11.8          | 7.6        | 2.45       | 75         |                                   | 目跡：内外面3                            |
| 27 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 12.1          | 7.1        | 2.9        | 80         |                                   | 目跡：内面3                             |
| 28 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (11.6)        | 6.6        | 2.8        | 45         |                                   | 目跡：内面1                             |
| 29 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (12.1)        | 7.5        | 2.55       | 55         |                                   | 目跡：内面3、外面トチン2                      |
| 30 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (12.8)        | 7.8        | 2.3        | 25         |                                   | 目跡：内面1、外面1                         |
| 31 |     | 長石釉   | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (12.8)        | 7          | 2.5        | 30         |                                   | 目跡：内面1、外面1                         |
| 32 |     | 長石釉   | 菊皿  | ロクロ      |         | 13.4          | 8          | 2.5        | 40         |                                   |                                    |
| 33 |     | 白釉    | 皿   | ロクロ      | 貼付け輪高台  |               | (7.0)      |            |            |                                   |                                    |
| 34 |     | 鉄釉    | 蓋   | ロクロ      | 糸切り     | 10.2          | 4.2        | 2.2        | 60         |                                   | 蓋表につまみを貼付け                         |
| 35 |     | 鉄釉    | 壺   | ロクロ      | 糸切り     |               | 4.9        |            |            |                                   |                                    |
| 36 |     | 灰釉    | 皿   | ロクロ      |         |               | 4.9        |            |            |                                   | 内外面に鉄分を多く含む輪トチン付着                  |
| 37 |     | 灰釉    | ソギ皿 | ロクロ      |         | (9.8)         |            | 1.6        | 25         |                                   |                                    |
| 38 |     | 御深井釉  | 平向付 | ロクロ後型打ち? | 貼付け輪高台  |               | 6.0        | 4.5        | 30         |                                   | 平面形は輪花形                            |
| 39 |     | 御深井釉  | 平向付 | タタラ?型打ち  | 紐環足2    |               |            | 3.6        | 40         |                                   | 目跡：内面2、外面輪トチン                      |
| 40 |     | 御深井釉  | 平向付 | タタラ型打ち   | 円錐状足2   |               |            |            |            |                                   |                                    |
| 41 |     | 御深井釉  | 平向付 | タタラ型打ち   |         |               |            |            |            |                                   |                                    |
| 42 |     | 御深井釉  | 平向付 | タタラ型打ち   |         |               |            |            |            |                                   |                                    |
| 43 |     | 絵唐津   | 平向付 | ロクロ      |         |               |            |            |            | 不明                                |                                    |
| 44 | 唐津  | 灰釉    | 丸皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | (10.8)        | 5.6        | 3.5        | 50         |                                   | 目跡：内面胎土目3                          |
| 45 |     | 灰釉    | 小皿  | ロクロ      | 削り出し輪高台 | 11.6          | 5          | 3.4        | 60         |                                   | 目跡：内外面砂目4                          |
| 46 |     | 灰釉    | 皿?  | ロクロ      | 削り出し輪高台 |               | (5.6)      |            |            |                                   | 目跡：内面胎土目2                          |
| 47 | 九州? | 緑釉?   | 蓋   | ロクロ      |         |               |            |            |            |                                   |                                    |
| 48 |     | 焼締    | 掃鉢  | ロクロ      |         |               | (14.2)     |            |            |                                   | 掃目6条                               |
| 49 |     | 焼締    | 掃鉢  | ロクロ      |         |               | (14.0)     |            |            |                                   | 掃目1条                               |
| 50 | 丹波  | 焼締    | 掃鉢  | ロクロ      |         |               |            |            |            |                                   | 掃目4条。外面口縁部に溶着痕                     |
| 51 |     | 焼締    | 掃鉢  | ロクロ      |         |               |            |            |            |                                   | 掃目1条                               |
| 52 |     | 焼締    | 掃鉢  | ロクロ      |         |               |            |            |            |                                   | 掃目6条                               |
| 53 | 輸入  | 染付    | 小杯  | ロクロ      |         | (4.6)         | (2.0)      | 3.2        | 40         | 外面：不明                             |                                    |
| 54 |     | 染付    | 碗   | ロクロ      |         |               | 4.5        |            |            | 内面：海老、外面：不明                       |                                    |
| 55 | 肥前  | 染付    | 碗   | ロクロ      |         | (9.8)         | (3.9)      | 5.2        | 60         | 外面：草花、高台内に印                       |                                    |
| 56 | 輸入  | 染付    | 皿   | ロクロ      |         |               |            |            |            | 内面：樹下人物か                          | 被熱による色褪せ                           |
| 57 |     | 染付    | 角皿  |          |         |               |            | 2.55       | 50         | 内面：草花ほか                           |                                    |
| 58 | 京都  | 土師器   | 皿   | 手びねり     |         | (12.2)        |            | 2.25       | 12.5       |                                   |                                    |



1



2



3



5



7



8



9



10



11



12

写真5 青織部・鳴海織部・志野織部・志野



写真6 長石釉・鉄釉・灰釉・御深井釉



写真7 唐津・焼締陶器・磁器・土師器



写真8 織部



写真9 志野



写真10 長石釉皿



写真11 長石釉菊皿・鉢・碗等



写真12 唐津



写真13 磁器